



独立行政法人



国立病院機構

# うれしの

第6号

発行所  
嬉野医療センター  
佐賀県藤津郡嬉野町  
大字下宿丙2436番地  
印刷 陽文社印刷部

NHO URESHINO MEDICAL CENTER

2005.7



写真(上瀬 隆) 春日溪谷にて



## 病院機能評価受審について

副院長 河部 庸次郎

病院機能評価受審の意義として“医療の質の向上”が挙げられます。皆さんの意識が高まることによって医療の質を上げていくことが、最大の目標であり、期待される結果であると思われます。しかし、今、私自身の個人的な病院機能評価受審の意義とは“病院を科学すること”という風に感じています。様々な一般企業では、それぞれの消費者のニーズに適合した商品を時代の趨勢にあわせて、時代時代のヒット商品を作っています。病院はそういった企業等と比較にならないものの様ではありますが、果たして、嬉野医療センターは時代のニーズに答えることのできる病院でしょうか？

皆さん、病院機能評価受審を通じて、「病院」特に「嬉野医療センター」をよく考えてみましょう。病院には医師、看護師、薬剤師、放射線科技師、検査技師、栄養士、事務職員、看護助手、給食、ボイラー、洗濯等々たくさんの職員、委託業者の方々がおられます。皆さんは、それぞれの専門の領域でそれぞれの仕事(業務)を日々遂行なされています。“でも、何の為に”皆さん、仕事をやっているの？と尋ねられたら、まあ、まずは給料を得る為に、言い換えれば、仕事量に見合った対価を得る為に日々の業務を行っているはずで。その次に来るものは、付加価値的なものでしょうか？例えば、看護師さんに



してみれば、患者さんの退院できる時のうれしそうな姿に仕事のやりがいを感じたりするものです。病院は個々の職員や業者の方々がかわって、一人一人の患者さんを幸せにするところなのです。これには、個々の職員が協力していかなければなりません。医師もあくまでその一員であることを忘れてはなりません。クリティカルパスを作成し使用することは、より皆が標準的な医療を工夫して（標準的以上なクリティカルパスを作ることが大切）作成することなのだと思えます。皆さんで担当外の患者さんの診療録を読みましょ。わからない診療録は看護師や主治医にその旨伝えるようにしましょ。人から読まれるとなると、いいものを書いていかないといい気持ちになります。

病院は一般企業と違ってその中身は非常に複雑です。年間延6600人の新入院患者の一人一人が全て違っています。医師やコメディカルもそれぞれ一人一人違っています。社会的背景あり、経済的背景あり、精神心理的背景あり、内服薬あり、身体機能の差があり、理解力の差があり、薬のアレルギーあり、生活習慣あり。患者さん一人一人が同じ疾患でもたくさんの違った背景を持っているのです。ですから、クリティカルパスによる標準化といわれてもうまくいかない人ばかりかも知れません。（いわゆるバリエーションはいくらあってもいいのです！）

今までは、これらのことを経験的に処理していたわけですが、ところがこれからは病院が単なるシステムも含めたハード面の改良を行う場所ではなく、より機能的なソフトの作成およびその時々での改良をそれぞれの病院が行っていくことが要求されてくるのです。

“病院を科学する”とは、この様なことだと思っています。その中には、病院の役割のこと、地域医療のこと、法律のこと、人権のこと、倫理のこと、チームワークのこと、パートナーシップのこと、インフォームドコンセントのこと、医療安全のこと、施設環境のこと、相談機能のことなどなどたくさんのことを検討したり、改善したりできるシステムを作り上げなくてはなりません。例えば、院内病院機能評価チームのようなものを作成することも一つの方策かも知れません（病院機能評価受審準備委員会と違います）。より進化できるようなシステムを構築し、更に実行していくこと、これが、病院機能評価において期待される事項であり、今後、私どもが行っていかなければならない仕事だと思っています。

この時に大切になるのが病院の理念や方針になります。嬉野医療センターの理念は、皆さんの嬉野医療センターで仕事を行っていく上での理念です。そして、その方針は全体が取り組んでいく方針です。これらの理念や方針を意識して自分の行っている仕事の内容を、自分自身あるいは先輩、同僚の意見を聞きながら見直しして、更に発展できるように努力していく必要があります。

繰り返しになりますが、「病院」は病院という箱物だけではなく、患者さんを中心に病院に関わっているすべての人や物、事柄、社会であることをご理解下さい。

わかりにくい文章になりましたが、今一度、あなたが現在行っている仕事「病院」とどのように関わりがあるのか、ちょっと振り返って考えてみていただきたいと思います。



## 我が校の卒業生である徳永瑞子先生が フローレンス・ナイチンゲール記章授与される

嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 小池恭栄

徳永先生が受賞されたフローレンス・ナイチンゲール記章は、看護師に与えられる世界最高の榮譽あるメダルであり、ナイチンゲール女史の生誕100周年を記念して1920年に第1回の記章が授与されて以来、隔年ごとに功績の著大な看護師に対して授与されています。受賞者の方は、前回までに1235人が受賞され、今年は3人の方ですが徳永先生が最も若く50歳代です。徳永先生の業績が世界的なものであり、いかに大きいかを示しています。

現在、徳永先生は、現在長崎大学医学部保健医療福祉学科教授です。ナイチンゲール記章の授与式は、

7月8日（金）東京プリンスホテルで日本赤十字社の名誉総裁である皇后陛下から授与されました。早くより発展途上国での活動を希望され、助産師としてザイール共和国でエイズ患者支援活動や母子保健指導や栄養失調児のケアに心血を注がれています。

皇后陛下からは「苦しむ人々の助けとなるべく、身につけられた知識と技術がこれからの日本の看護に受け継がれ、美しく生かされることを願います」とお言葉をいただかれています。

徳永先生は、国立嬉野病院附属看護学校の第14回生の卒業で、開学50周年の記念式典の際に、特別



講演をしていただきました。その時に、エイズ患者さんに対する先生の献身的な看護を聞き、同じ看護師として看護の基本は対象がどのように変化しても変わらないことを実感しました。また、先生の実践がそのまま当校の教育理念であることも感じました。また、学校祭では、毎年アフリカ友の会のバザーを後輩がお手伝いしています。昨年は、古賀学校長はじめ病院職員に支援していただき、売り上げを伸ばしました。今後も、継続していきたいと思います。先生の受賞を聞き、自分のことのように嬉しく思い、新たな気持ちにさせられました。先生が荣誉あるナイチンゲール記章をされ、学校・病院職員一同心よりお祝いを申し上げます。今後は、徳永先生の意味

を受け、世界に羽ばたけるような看護師を育成するよう努力していきたいと改めて強く感じています。



## 嬉野医療センターにおける 開放型病院の開設について

地域医療連携部長 岡 忠之

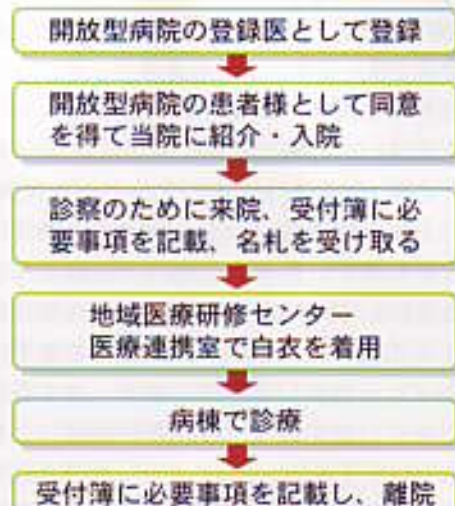
昨年8月の地域医療連携室の開設を機に、地域の医療機関とのよりよい連携と患者様への医療サービスの向上を目指し、当院のすべてのスタッフが一丸となって努力して参りました。具体的には新患の患者様の診療予約制度、放射線学的検査や内視鏡検査の事前予約制度、入院患者様の退院にあたっての積極的な逆紹介の推進などです。これらに引き続く地域医療連携の新たな制度として、当院は「開放型病院」を開始いたしました。

この制度は「開放型病院登録医」から「開放型病院の患者様」として紹介をいただいた場合、紹介医の先生と当院の主治医とが一緒になって、当院での入院診療をおこなう制度です。これによって紹介医と当院の主治医が協力し、これまで以上に「患者様にとぎれのない、やさしい医療、信頼される医療」を提供していきたいと思っています。開放型病院の診療の流れを示します。

これまでの入院との主な違いとして、次のような点が挙げられます。

①患者様が当院に入院中においても、紹介医と当院の主治医とが一緒になって診療に従事することにより、患者様は安心できる、とぎれのない診療を受けることができます。②紹介医は自由にカルテの記載や検査結果の閲覧ができます。これによって紹介医は入院中の患者様の病状、治療経過を詳しく知ることが可能となります。③退院に際しては、紹介医と主治医が患者様の状態と退院後の治療方針とを十分に検討することによって、退院後の紹介医による診療が

### 開放型病院の診療の流れ



これまで以上に円滑になり、よりよい医療の提供が可能になると思われます。

現在鹿島・藤津郡医師会の32名の先生方に開放型病院の登録をしていただいております。開放型病院の制度についての質問や、開放型病院の登録医として今後登録を希望される場合は、地域医療連携室までご連絡下さい。

地域完結型の医療を目指した地域医療連携の一つとして、この開放型病院の制度を皆様とともに発展していこうと思っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。





## ME機器室のご紹介

ME機器管理室長 須田 久雄

われわれ病院で仕事をする者に課せられた、大きなそして唯一の使命は、安全で安心な医療を提供することに尽きます。その使命を果たすためにさまざまな業種のプロフェッショナルが働いており、それらのチームワークのもとで病院がひとつになっています。そのプロ集団のひとつであるME機器室をご紹介します。

### <ME機器室の仕事とは>

- ①具合が悪くなって入院、するとなにかしら皆さんのまわりには点滴と一緒にコンセントにつながった機械がベッドの横に登場します。点滴量を正確に測る輸液ポンプの登場です。
- ②病状によっては、「人工呼吸器で呼吸を手助けしましょう。また「腎臓の力が弱くなったので人工透析で急場を凌ぎましょう」と言う事態になることもあるでしょう。すると人工呼吸器、人工透析器械の出番です。
- ③「頑張って心臓の手術をやりましょう。実は心臓の手術では一旦心臓を止めて手術をするんですよ」「エッ 心臓止めても大丈夫ですか?」「大丈夫です!心臓が止まってる間は人工心臓と人工肺で命の肩代わりをします。ちゃんと専門の技師さんがその機械を操作してくれますから」「これらすべての機器が正常に働いているのかチェックします。調子が悪かったら点検して整備します。人工心肺はしっかり操作しますから、心臓外科医はしっかり手術に集中して下さい。」

そんな仕事をしているのがME機器管理室なのです。以上のことをちょっと難しくいうと次のようになります。規程なるものがありますので、抜粋してご紹介します。

病棟で使用されている人工呼吸器、輸液ポンプ等の**生命維持装置**の保守点検及び機器故障時の応急処置を含めた修理。

人工透析、血液浄化部門における関連機器の操作、保守点検。

手術室及び集中治療室関連業務:

心臓手術における人工心肺装置の操作並びに保守点検。麻酔器及び**生命維持に関する**各種機器の保守点検。

つまり「生命維持に関する」ととても重要な仕事を担っているのです。

### <これまでのME機器室>

これらの業務のなかでも心臓血管外科、麻酔科関連の手術室業務に関しては現在十分軌道に乗りました。しかし手術室内に限られた業務であるため、多くの方々には知られていないのが現状でした。人工透析、血液浄化部門においては、従来人手不足のため十分な対応ができていませんでしたが、今回の臨床工学技士増員により徐々に守備範囲を広げてきております。残念ながら昨年度までは、輸液ポンプ、人工呼吸器に関しては病棟毎の保守、点検にお任せする状況でした。

### <これからのME機器室>

そこで今年4月から全ての医療機器に「背番号」をつける作業からはじめました「最後の点検はいつ?」「次の点検の予定は?」「誤作動はないのか」といった全ての機器の診療録(カルテ)をつくりまします。まずは、輸液ポンプにはじまり、人工呼吸器、その他の機器に広げていく予定です。これら医療機器に不具合があればまずはME機器室に持ち込んで下さい。責任を持って医療機器の保守点検を行います。つまり生命維持装置の万一の誤作動に関して確固たる責任を負いたいと思っています。このことはリスク管理の上でも欠くことができない病院機能のひとつです。院内における医療機器の統一を図ることで、操作性が画一的となる(誰でも正確に扱える、部署が変わっても大丈夫)、保守点検が容易(みんな同じ機種)、余剰機器を適正に配置できる(いつでも貸し出せる)、という利点が生じます。

ある病院の話です。ME機器室に「電気毛布が暖かくないけど、みてほしい」「冷蔵庫が冷えないけど」という電話が入ったそうです。ちょっと守備範囲外ですが、「まずは病院のコンセントに繋がっている全ての器械の駆け込み寺になりたい」、そんな意気込みの新しいME機器室を見守って下さい。「なるほどこれは有難い」と皆さんに感じていただけるよう、中央管理部門として大きく貢献したいと思っています。





## 新医師臨床研修制度がスタートして

鶴野医療センター 教育研修部長 内藤 慎二

以前、本誌の中で、新臨床研修制度についてお話をしたことがあります。その時は、新臨床研修制度がスタートする直前であり、多くの医療機関が不安と関心を抱きながらその準備を整えていた頃でした。そして、平成16年4月、この制度はスタートし、今年2年目を迎えました。

ここでもう一度新臨床研修制度について簡単にお話いたしますと、まずこの制度により初期臨床研修が必修化され、医学部を卒業し医師免許を取得したものは、各専門科に入る前に、研修指定病院で、2年間の研修（必修科：内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、地域保健、救急）を行わなければならないとなりました。そしてその目的は、医師としての基盤形成の時期に、①医師としての人格を涵養し、②プライマリ・ケアへの理解を深め、患者を全人的に診ることが出来る基本的な診療能力を修得することにあります。この制度実施の背景には、それまでの医療界がもつ様々な問題があり、一つは、医療が極めて専門化され、専門医の他科の領域を診る能力が低下したこと、また一つは、病巣、病態の治療ばかりに目が向き、患者の人格や心が蔑ろにされる傾向が出てきたこと、さらには肉体的過酷を極める卒後研修の現場（研修医の環境、待遇問題）などがありました。新臨床研修制度は、このような問題点を改善すべく、医師としてのスタートの時期に基本的な幅広い診断能力と医師としての人格を身につけること、またそれが行える環境を整備することを目的にスタートしたのです。さて、それでは研修を行う際、医学部卒業生はどうやって研修病院を見つけ、選ぶのでしょうか？

これには医療研修推進財団が仲介し、医師臨床研修マッチング協議会が主催する日本医師臨床研修マッチングプログラムというコンピューターシステムが用いられています。すなわち、医師免許を得て臨床研修を受けようとする者（研修希望者）は自分の研修を希望する医療機関を複数ピックアップし、このプログラムに登録します。そして、各医療機関（研修病院）も自分が希望する研修医を登録し、お互いの希望が一致（相思相愛）すれば、マッチング（組み合わせ）決定となるわけです。ですから、医学生は5年生の時期や6年生のマッチング登録開始までの間に興味のある研修病院を見学し、研修を希望する医療機関を捜さないといけません。そして、研修病院も、登録開始の前で面接や筆記などの試験を行い、どの研修希望者を採用するか決めないといけないわけです。このマッチングというシステムは確かに相思相愛で決まる一つの良い方

法ではありますが、一方でマッチングから外れ、二次募集参加を余儀なくされる研修希望者、希望者がなく研修医が来ない研修病院が出てくる可能性も当然残されています。幸いに、これまでに行われた2回のマッチングでは、マッチング率は約80～90%と、多くの研修医が希望する医療機関に入れ、ほとんどの研修病院が希望する研修医を獲得した結果となっています。このような決定方法から、各研修病院は、研修希望者がより興味を持ち、研修したいと思うような特徴ある研修プログラムを作成する必要があり、またさらに、彼らを指導する指導医のレベルを上げる必要があるのです。

さて、当院では現在3名の研修医（管理型研修プログラムにて研修）が在籍し、毎日遅くまで頑張っています。教育研修を担当する私から見ると、彼らは大袈裟でなく将来の鶴野医療センター、佐賀、日本、いや世界の医療界を担ってくれる原石のように思えます。そして、本当にそのように育ってくれることを期待していますし、そうなるようにわれわれ指導医も毎日全力で彼らの育成に努力しています（当院指導医の約9割17名が厚生労働省認定の指導医研修を受講、修了しており、この数は全国でもトップレベルです）。今までは初期臨床研修に関しては大学が中心となって行ってきましたが、これからはこのように多くの研修病院で、人格と技術を備えた研修医の育成が行われます。

そして、当鶴野医療センターもその役割を担う重要な医療機関の一つなのです。当院が地域住民の方々へ良質で安全な医療を提供することに努力し、また地域住民の方々も、当院の医師育成に協力していただく、このように医師の育成を通して、地域が一丸となって地域医療を発展、充実させていく、このような形ができればこの鶴野の地に理想的な医療環境、医療体系が構築できると信じています。

新しい制度がスタートし、新しい形での医師の育成が始まりました。以前も申し上げましたが、私は、医療技術の修得と医師としての人格形成は高いレベルで並行して行われなければならないと思っています。そして、医師には今回のような制度の変更に関係なく、永久不変な医師としての姿勢があると思っています。“病を憎み、患者を人としての尊厳のもとに病から救う”という姿勢です。私ども鶴野医療センターの全スタッフはこれからもこの姿勢から外れることなく、この姿勢を研修医にも伝授し、患者の皆さまに高度で良質な信頼される医療を提供できるよう努力していきます。





## 医療安全管理室からこんにちは

専任リスクマネージャー 前川 律子



4月から専任リスクマネージャーになりました。よろしくお願ひ致します。

当院の理念でもある「安全で安心できる医療の実現」を目指し、皆様と共に努力していきたいと思っています。現在はまだ役割の大変さ、責任の重さに戸惑う毎日です。

「リスクマネージャーの仕事は現場にあり」といわれているように、まずは身体の方を動かし積極的な部署訪問を行っていきたくと考えています。ところで「安全文化がある」とは病院にいる全ての人が、病院にとって安全が重要な価値があるという共通の認識をもつこと、そしてその認識に基づいた行動をとることです。その具体的な行動がヒヤリ・ハット報告です。ヒヤリ・ハット報告は、情報を共有することによって再発予防につなげることになります。つまり「あなたの気づき」が患者さまの安全を守ります。「ん？変じゃない」「ここがおかしい」ってことありませんか？

急ぐ時こそ 深呼吸 17 17を達成に (外・中)



2005年 7月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

医療安全管理室 看護師センター

## 看護フェアを行って

東1病棟師長 古賀 雪子



近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの生誕日(5/12)にちなみ『看護の日』が制定されました。

遠野医療センターにおいても、地域の方々に看護について関心が高まり理解が深められるよう、看護部業務委員会が中心となり、5月11日に看護フェアを開催しました。

内容として、健康相談(身長・体重・血圧・体脂肪測定) 栄養相談、介護用品の紹介・病棟・手術室・外来で行っている看護の紹介を行ないました。

事前に院内に看護フェアのポスターを掲示し、すでに退院された患者様へは、受持ち看護師が御案内の葉書をだし、入院中の患者様へは、メッセージを書き入れた御案内のカードを配布しました。当日は、207名の方が参加され、当日来受診の患者様や面会・お見舞いの為来院された方でした。

病棟・手術室・外来で行っている看護の紹介は、ポスターと一部ビデオによるものでした。個人情報保護法の観点から、今回ポスターや写真掲載についてご協力いただいた患者様やご家族には、事前に説明を行い了承を得、その旨を文章化し提示しました。

これからは『みんなの心に看護の心が伝わる』ように心を込めて、看護に取り組んでまいりたいと思います。中には案内した葉書を持ってみえた方もおられ大変嬉しく思いました。アンケート調査でも、ほとんどの方が「役に立った」という結果で、「時々このような催しをやってほしい」「体脂肪を測っている話を聞けてよかった」など、意見をいただきました。





# 研修報告



平成17年度

## 事務部新採用研修会

企画課算定係 福江 美紀子

私は今年4月に国立病院機構に採用され、3日間の新採用者研修に参加しました。病院に関係する法律・会計・歴史からビジネスマナーやパソコン、人工呼吸まで幅広く学びました。この研修で社会人として、また医療職員としての責任をあらためて認識すると同時に、仕事から多くのことを吸収して、自分自身成長していきたいと感じました。まだまだ学ぶことばかりですが、早く皆様のお役に立てようがんばります。よろしくお願いします。



平成17年度

## 事務部新採用研修会

企画課財務管理係 中嶋 悠子

四月下旬、国立病院機構の事務部の新採用職員研修が3日間という日程で行われました。この研修の目的は、事務部職員の資質の向上をはかるために行われたもので、この研修を通じて九州各地から集まった同期15名は初めて顔を合わせ、医療関係についての講義を受けました。

医療の動向や医療関係法の講義から、救急蘇生法の実践やビジネスマナーと幅広く学び、仕事の奥深さを知ることができました。この研修を通じて感じたのは、病院という仕事場は、医療技術はもちろんのこと、そこで働く人達の態度、仕事に対する姿勢、言葉、接し方が重要であるということです。さらに、経験と知識を得て仕事の幅を広げていくことも必要だと思いました。

内容がとても濃くて、3日間では足りない位でしたが、とても充実した研修でした。特に、同期15名が全員集まる機会というのはこの研修が最初で最後であったかもしれないけれど、初心を忘れず、これからも良き同期であり、また良きライバルであり続けたいと思います。



平成17年度

## 事務部新採用研修会

企画課 契約係 石橋 憲一郎

4月の26日から28日までの3日間、福岡にあるブロック事務所で新採用事務職員の研修を受講してきました。3日間の研修では社会人としてのビジネス・マナーや公務員として求められる倫理、並びに医療関係法（医療法、健康保険法）や診療報酬制度の仕組み、会計業務に関する規定といった、今後病院機構の職員として働いていくうえで必要な多くのことを学びました。3日間と期間が短かったこともあり、学んだことはあくまで基礎的なものではありましたが、1月の採用以来、現在携わっている契約業務以外の職務について知る機会がほとんど無かった私にとって、他施設の同期の人間から他の仕事についての事や、ブロック事務所の方々の経験談等、色々な話を聞くことができ、非常に有意義な研修であったと思います。





# 平成17年度

治験管理室 岩永由香

## 治験コーディネーター養成研修

平成17年5月19日から6月1日まで東京都清瀬市の日本看護協会看護教育研究センターで開催された、治験コーディネーター養成研修に参加させていただきました。参加者は全国の新任CRC。または今後CRC業務に関与する予定のある看護師106名で（意外と平均年齢は高そうでした）、所属も大学病院、国立病院機構、公立病院、私立病院、クリニック、治験施設支援機関等さまざまでした。10日間に渡り治験や臨床試験の成り立ち・臨床試験倫理・臨床薬物動態・試験計画法・薬事法やGCP・治験事務局業務・CRC業務の実際・インフォームドコンセントのロールプレイングまでと治験に関する基礎知識を学び、講師の先生方も中野重行先生はじめ井部俊子先生、日本初のCRC大泉京子先生など臨床試験やCRC界のカリスマ的存在の万々ばかりで非常に興味深く、わかりやすいお話をたくさん聞かせていただきました。

1997年に制定された新GCP(医薬品の臨床試験の実施に関する基準)以後、日本の治験の信頼性や患者の権利を守るためGCPや治験実施計画書を厳しく守ることが要求され、忙しい医師だけでは治験はできない状況となりました。治験に関する患者様のスケジュール管理や関連部署との調整、文書を用いての説明同意の取得、記録や報告書の作成・管理などの医師の支援業務を行う専門スタッフの必要性が高まり、CRCという職種は生まれました。

今回、この研修に参加して学んだこととして、薬理学や薬物動態学は治験薬が患者様の体に与える影響を知った上で最適なケアをするために必要であるということ。薬事法やGCPといった法律や治験実施計画書を守ることは治験の信頼性を高めるためでもあり、患者様の安全を守るためでもあるということ。他にも多くのことを学びましたが、同じ方向を目指す仲間との交流をもてたこともこの研修の成果であったと思います。CRCとなって2ヶ月余り、実質的なことはまだ何もできていませんが、早く患者様や先生方のお役に立てるよう、新しい薬の開発の一助をお手伝いできるようにがんばりたいと思います。





# 新人紹介



**整形外科医師 釘崎 創**

6月1日付けで整形外科に勤務することになりました釘崎創です。  
平成13年に佐賀大学整形外科に入局し大学と福岡、多久市の病院に勤務し主に人工関節学、外傷学を中心に学んできました。運動器疾患を持った方の早期社会復帰のサポートとなるよう頑張っていきます。よろしくお願いします。



**神経内科医師 有廣 昇司**

4月より神経内科でお世話になっております。平成8年九州大学を卒業し、2年間の研修後、国立循環器病センター、白十字病院を経て、昨年は九州大学病院で勤務しておりました。今年は区者になってちょうど10年目ですが、ここ数年で増えた体重をシェイプアップしながら働きたいと思っております。宜しくお願いします。



**眼科医師 草野 真央**

この度、6月2日付けで当院眼科に勤務することになりました草野です。  
2年間、長崎大学病院、長崎原爆病院にてそれぞれ眼科で研修を積んできました。  
嬉野医療センターに赴任してきてまず感じたことは、病院内の雰囲気が良いということでした。また、職員の方や患者さんの温かさを感じられました。  
まだまだ未熟者ですので、多々ご迷惑をおかけすることと思いますが、少しずつでも皆様のお役にたてたいと思います。よろしくお願いします。



**心臓血管外科医師 高松 正憲**

今年で5年目になる心臓血管外科の高松正憲です。所属は佐賀大学胸部外科です。学生時代、部活はバスケットをしていました。毎年行われる全国医師バスケットボール大会にも時間が許せば参加していますが、最近では体がついて行かなくなり、去年からはゴルフに手を出して、日々鍛錬しています。もちろん、医療に関しても精一杯頑張りますので、御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い致します。



**麻酔科医師 上村 聡子**

5月1日付けで赴任いたしました、麻酔科の上村です。外科系の病棟を中心に術前や術後の患者さんの所に伺いますのでよろしくお願いします。  
周術期の患者さんのストレスを軽減するのが目標です。何か気付かれたことや改善点ありましたら皆さん教えてください。



**耳鼻咽喉科医師 畑地 憲輔**

初めまして。耳鼻咽喉科に赴任致しました畑地と申します。恒例のご挨拶ですので簡単に致しますが…。名前は、はたとちと言いますが年齢は32歳です。最近体重増加が気になり始め、スイミングを始めようと思っています。諸先生方とプールサイドでお会いすることがあると思いますが、お声を掛

けて頂ければと思います。まだ4年目の若輩者ですので、ご迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが、ご指導の程宜しくお願い致します。



**循環器内科医師 中田 智夫**

千々岩先生に代わって、6月から循環器内科のナンバー3としてお世話になっております中田です。転勤前は五島中央病院に勤務しておりました。嬉野は研修医時代に勤務したことがあり、懐かしさを感じています。まだまだ未熟でいろいろ迷惑かけることもあるかと思いますが、よろしくお願いします。尚、双子の兄貴も嬉野医療センターで研修医時代を過ごしており、くれぐれも間違えないよう気を付けてください。



**小児科医師 小野 晋康**

初めまして。平成17年6月1日付で小児科に配属されました小野晋康（あののびやす）と申します。前任の垣内に代わり、同じ国立病院機構である佐賀病院から転属になりました。小児科医としては今年で4年目となります。佐賀大学の旧研修方式に沿ってきたため、これまで小児科以外の仕事をすることがありません。そのため他科の先生方に度々迷惑をお掛けすることと思います。御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



**消化器内科医師 塩澤 純一**

6月2日付けで赤澤先生の後任として消化器内科へ赴任いたしました塩澤純一です。平成6年に長崎大学第二内科へ入局し研修後、長崎大学大学院（原研病理）、平戸市民病院、佐世保総合病院を経てまいりました。生まれも育ちも長崎県で長崎を離れて生活するのは初めてですが、当院には大学病院時代に1年ほど週1回、病理診断と解剖業務を行い長崎より通っておりました。また、弟（消化器内科：塩澤健）が以前お世話になった事もあり、この度馴染みのある嬉野医療センターに勤務させて頂く事になり感慨深いものがあります。一日も早く皆様の役に立てる様にがんばります。どうぞよろしくお願い致します。



**リウマチ科医師 田中 史子**

4月1日から、リウマチ科として勤務させていただきます。H10年に、長崎大学第1内科に入局、その後は長崎市、佐世保市内の病院をそれぞれ1年ずつ、その後4年間長崎大学第1内科の大学院に席を置き、現在に至ります。温泉とお茶が大好きなので、嬉野の地に來れたことはとてもうれしいです。笑顔で、涼として、日々の診療にあたりたいと思います。よろしくお願いします。



**麻酔科医師 濱田 献**

実は、4月から佐賀県立病院好生館より赴任してました。主に手術室が仕事場ですので、みなさんにお目にかかる機会はあまりありませんが、こっそり病棟や外来や売店等にも出没しますので、その際はよろしくお願いします。





産婦人科医師 増田 幸子

平成17年6月より産野医療センターに勤務することになりました産婦人科の増田幸子です。1年目は長崎大学で産婦人科を、2年目は大学で麻酔を、国立長崎医療センターで救急とNICUを研修し、3年目の今年、産婦人科に戻ってきました。いろいろわからないことも多くご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いいたします。



呼吸器科医師 中村 茂樹

今年で医師になって六年目とまだまだ若輩者です。これまで、長崎大学医学部附属病院に3年、佐世保総合病院に一年、虎の門病院で約1年勤務して参りました。専門は呼吸器内科の中でも感染症になります。呼吸器全般はもちろん、肺炎、または難治性の感染症でお困りの際は、ご紹介いただければ幸いです。産野医療センターで臨床医として成長できるよう頑張りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



腎臓内科医師 木下 卓哉

この度、河津先生の後任で長崎より赴任して来た腎臓内科の木下です。平成9年に医師免許を取得し、現在、医師8年目になります。前任の河津先生は1年間の内300日以上は病院に泊まっていたのではないかとされるくらい忙しかっただろうですが、私も赴任して早々その洗礼を少しずつですが味わっています。腎臓内科は医師1人ということもあり、皆様のご協力が必要ですので宜しくお願いします。



神経内科レジデント 中村 晋之

5月16日付けで石原先生の後任として赴任いたしました神経内科レジデントの中村と申します。平成15年に九州大学第2内科に入局し、2年間福岡で研修を行い産野に参りました。日々の診療に精一杯がんばり、また、多くのことを吸収していきたいと思っています。知識も技術も未熟でみなさんに大変ご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



研修医 吉廣 優子

今年の3月に佐賀大学を卒業しました、研修医の吉廣優子です。ここ産野の豊かな自然と優しい人々と通しの温泉の中で、2年間の研修を明るく元気にがんばっていききたいと思っています。将来は救急、ゆくゆくは離島医療に携わりたいと考えており、親近感の持てる医者を目指してこれから邁進していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。



研修医 松本 恵輔

この度、初期臨床研修医としてお世話になることになりました。すべてが初めてのことなので、指導医の先生をはじめさまざまな病院スタッフの方々にご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導・ご助言をよろしくお願いいたします。



副看護部長 林田 千秋

4月1日付で九州医療センターから参りました。出身は熊本です。産野の第一印象は整備された病院環境、職員間の挨拶、看護事務室からの桜並木の美しさ、空気が美味しいこと...すべて清々しさを感じます。皆様の仲間としてこれからよろしくお願いいたします。



手術室看護師長 徳永二美代

4月より手術室でお世話になっております徳永二美代です。これまでは、長崎病院で勤務しておりました。産野医療センターに赴任して感じたことは、病院の雰囲気明るく、清潔で、職員の皆さんがとても元気で、活気ある病院という印象を受けました。まだまだ未熟ではありますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



西2病棟看護師 江口 葉子

今年4月より西2病棟配属になりました。看護師としても、社会人としてもまだまだ未熟者のひよっこですが、患者様や他のスタッフの万々に助けをもらいながらがんばっています。信頼される看護を目指し、明るく元気に患者様の声に耳を傾けこれからも頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。



西2病棟看護師 佐藤 千晴

今年4月、故郷の島根を離れ、産野にやってきました。西2病棟では方言の壁に負けず患者さんとの会話を楽しんでいます。今後は会話だけでなく、信頼できる看護が届けられるよう頑張りたいと思います。



西4病棟看護師 岡 裕美

西4階に配属され三ヶ月が経ちました。少しずつですが病棟にもなれこの産野医療センターにも慣れてきているところです。毎日一つ一つが勉強です。患者様に安全に安心して看護を提供していけるように日々精進していきたいと思っています。



西4病棟看護師 大久保由香

舞鶴医療センターの学校を卒業し、何も分からない病院での就職で、初めは不安で一杯でしたが、多くのスタッフに支えられ、毎日頑張っています。まだまだ技術は未熟ですが、心にゆとりを持って看護が出来るよう日々努力していきたいです。



西4病棟看護師 小田 望美

4月より西4病棟で看護師として働き始めています小田望美です。まだまだわからないことが多く、一日一日が勉強の毎日ですが一つ一つ一生懸命頑張っています。よろしくお願いいたします。



東2病棟看護師 山崎由里子

東2病棟で働き始めて約3ヶ月が過ぎようとしています。入った当初は何も分からず、毎日バタバタしていましたが、夜勤も始まり、今は少しずつ仕事にも慣れてきた感じがしています。まだまだ分からない事も多いですが、日々スタッフに



助けられながら楽しく仕事をしています。今後も、患者様にとってよい看護が提供出来るよう、多くの事を学び、吸収して一人前の看護師に慣れるよう努力していきたいと思ひます。



**東4病棟看護師 百武真理子**

東4病棟に配属になった百武です。嬉野という見知らぬ街で不安を抱えて就職した私ですが、患者さんの笑顔や元気に退院されていく姿を見て、そして先輩看護師さんのすばらしい看護観に触れて仕事へのやりがいと日々看護師として人間として成長していかなければならないという責任を感じるようになりました。これから多くの困難な出来事に遭うと思いますが、それも自分を成長させる資源にしてがんばっていきます。



**東4病棟看護師 野口あゆみ**

私たち新人看護師が勤務に付き早3ヶ月が過ぎました。まだまだ未熟で病棟スタッフや、患者様その家族の方々には迷惑をかけるながらも、より良い看護とは何かと模索しながら看護師として聞かせていただいています。今後もたくさんの方と関わりながら、いろいろなものを吸収していきたいと思っています。



**外来看護師 田崎 詩子**

6月より、外来で勤務させていただいています。幼い頃より親しみのある貴院で勤務できることを嬉しく思っています。

まだ慣れないことも多く、外来スタッフの皆さんに助けられながら、あっという間に1ヶ月が過ぎました。これから、より多くの患者様と接する機会があると思いますが、1日でも早く皆様に満足していただける看護を提供できるよう頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。



**図書係 松尾 聡子**

5月16日より図書係として勤務させていただいています。3月末まで近隣の公共図書館に勤務していましたが、医療機関での図書業務は初めてのことで皆様には御迷惑をおかけするかとと思ひますが、スタッフの方々に役立つ図書づくりを目指し頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



**臨床工学技士 野口 博文**

人工心肺、人工透析業務を主に行っています。あまり臨床工学技士になじみのない部署もありますが、今後は機器の中央管理を行っていきますので何かあったら声をかけてください。よろしくお願いいたします。



**医療ソーシャルワーカー 糸山 尚美**

5月より勤務しております糸山と申します。地域医療連携室で勤務する傍ら、患者様の暮らしの相談にあたる福祉の専門職として、医療ソーシャルワーカーをしています。患者様が安心して入院加療、そして退院されますように患者様と一緒に考え、よい支援ができるよう、各関係機関の方とも連携を図りつつ頑張りたいと思ひます。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



**事務助手 掛橋美由紀**

4月25日より事務助手として勤務しております。総合病院での勤務は初めてで、まだ戸惑う事も多く、ご迷惑をおかけする事も多々あると思いますが、笑顔忘れず日々成長していけたらと思ひます。宜しくお願いします。



**事務助手 山口 直子**

4月より事務助手として管理課庶務係に配属となりました。

不安と緊張の中始まった嬉野医療センターでの勤務ですが、すでに3ヶ月が過ぎ、周囲の方々に助けて頂きながら、いろいろな経験をさせて頂いております。まだまだ慣れないばかりで、覚えることも戸惑うことも一杯ですが、少しでも早くお役に立てるように頑張りたいと思ひますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## 4月1日以後の医師の異動について

医局長 副島 佳文

4月1日以後以下の移動がありました。19名の医師が転出し、20名の医師が赴任してこられました。この次期は医師の交代が多いのですが、病院の動きはこれまでと変わりはありません。どうぞご安心ください。よろしくお願いいたします。

| 診療科    | 退職    | 新任    |
|--------|-------|-------|
| 呼吸器科   | 田中 宏典 | 中村 茂樹 |
| 消化器科   | 赤澤 志穂 | 塩澤 純一 |
| 循環器科   | 千々岩理佐 | 中田 智夫 |
| 心臓血管外科 | 古賀 清和 | 高松 正憲 |
| 神経内科   | 岩永 健  | 有廣 昇司 |
|        | 石原 愛子 | 中村 晋之 |
| 腎臓内科   | 河津 多代 | 木下 卓哉 |
| 小児科    | 垣内 俊彦 | 小野 晋康 |
| 外科     | 井手 昇  | 黨 和夫  |
|        | 横田 大輔 | 持永 浩史 |
| 整形外科   | 田代 直輔 | 廣田 康宏 |
|        | 嶋崎 貴文 | 釘崎 創  |
| リウマチ科  | 浦山 哲  | 田中 史子 |
| 産婦人科   | 竹ノ下由昌 | 増田 幸子 |
| 眼科     | 中村 美樹 | 草野 真央 |
| 耳鼻咽喉科  | 川田 晃弘 | 畑地 憲輔 |
| 麻酔科    | 香川 嘉彦 | 濱田 献  |
|        | 雨森 泰子 | 上村 聡子 |
| 研修医    | 立石 洋平 | 松元 恵輔 |
|        |       | 吉廣 優子 |





## あじさいコンサートを開催して

管理課 平井 智実

6月26日(日)恒例の院内コンサートを行いました。

今回はクラシックやポピュラーをはじめ梅雨の時期ということもあって雨をテーマにした曲を演奏しました。おなじみの童謡“かたつむり”などを伴奏に合わせ全員参加しての合唱は子供からお年寄りまで誰もが楽しめたのではないのでしょうか。また、計屋先生の弾き語りは大好評でアンコールの声が続きました。心残りの方も多数いらっしゃったと思いますが、次回のコンサートを楽しみにしたいですね。



私は今回初めて参加させて頂きましたが、入院患者様はもちろん院外からもたくさんの方々に来て下さったことをとても嬉しく思いました。久しぶりに大勢の前で演奏し、最後まで緊張が解けることはありませんでしたが、皆さんの楽しそうな姿を見ていると充実感があり次に向けてのやる気も湧いてきました。これからは私たちの演奏で皆さんが少しでも元気になり、心が癒されたら…と思います。



## 友情を感じたスポーツ交歓会

緑野医療センター附属看護学校  
第53回 坂口 綾



初めて参加したスポーツ交歓会は、とても心に残るものになりました。私は、ドッジボールをしました。小学校のとき、遊びでしかしたことがなかったので、試合というのは不思議な感じがしていました。私たちは、2試合負けてしまったので三位決定戦になりました。その試合の結果は引き分けだったので、キャプテン同士でジャンケンすることになり、私たちのチームは負けてしまいました。その瞬間、チーム全員でキャプテンの所に走っていき、「頑張ったね。ありがとう」と言って涙がとまりませんでした。そのときに私たちは決めたことがありました。それは、「来年もみんな一緒にドッジボールをして、勝つ」ということです。キャプテンは泣きながらこのことを言っていました。

さらに心に残ったことは、目の前で3年生が優勝したことです。私たちは負けたことがとても悔しかったので、3年生の優勝は嬉しかったです。また、練習の時ずっと対戦相手て私たちが勝てなかった2年生も三位という成績で本当にうれしかったです。バスケット3年生は、V3を達成し、私の部屋の先輩も大喜びしていました。

バレーでは2年生が二位という成績でした。決勝戦は私も見ていたのですが、手に汗握る試合でい





い試合を見ることが出来てよかったと思っています。

私たち1年生（53回生）は全員同じポロシャツを着て、ペンキで必ず“53”という数字を書きました。2年生も、3年生もそれぞれ同じポロシャツで、どの学年も“一致団結”という言葉がぴったりだと思いました。

友情を感じたスポーツ交歓会によって、私は「このクラスで良かったなあ」と思いました。来年はさらに友情を深め、バスケットボール・ドッジボール、どの種目も今より強くなりたいです。



## ★ スポーツ交歓会を終えて

嬉野医療センター附属看護学校  
第52回 白山かおり

今回のスポーツ交歓会は長崎医療センターが主催となり嬉野の会場で行われました。嬉野が会場ということで「私たちは何かしなければならぬのではないか」「場所などの把握は大丈夫なのか」など心配していましたが、長崎と連絡を取り合い無事に開催することができました。私は、昨年バスケットをしており、嬉野の3年生を目標とし、また3年生の三連覇をくいじめようと一年間練習してきました。昨年の練習では先輩たちの強さに圧倒され、昨年の本番では先輩たちと対戦する前に全敗してしまいました。今年、私たちは第1試合、長崎・嬉野の全校生徒がいる中でプレッシャーを感じることなく楽しみながらプレーでき、一勝することが出来ました。そして、決勝進出をかけて次の嬉野3年生との試合を良い精神状態で迎えることが出来ました3年生との試合ではお互い真剣で、私たち2年生は自分たちの力を充分に発揮できた試合になったと思います。その結果、10対6と4点差で負けてしまいました。そして先輩たちは三連覇し、改めて先輩たちのすごさを実感しました。この交歓会をとおして3年生だけでなく、まだ入学したばかりの1年生とも親睦を深めるきっかけとなりました。また長崎の学生とも交流を深めることが出来たと思います。

今回の交歓会では本番前日まで慌しく、長崎・嬉野学生に心配をかけてしまいました。次の交歓会では今回のようにならないようにしたいと思います。



## ★ スポーツ交歓会によせて

嬉野医療センター附属看護学校  
第51回 手島 郁美

今年も、毎年恒例のスポーツ交歓会が開催された。今年も長崎で行われるはずだったが、体育館使用の関係上、嬉野での開催となった。

毎年、白熱する戦いが繰り広げられる交歓会だが、今年も、その盛り上がりはすごかった。私は、1年生の頃からバスケットに出場させていただいているので、今年もバスケットに出場した。私たちのチームは、団結力があり、負けず嫌いな人ばかりが集まっているせいか、2連覇を果たしていた。

だから、今年も絶対に優勝したくて練習に励もうと思っていたが、3年生ということもあり、実習に追われ全く練習をすることができなかった。結局みんながそろって練習できたのは、たった1回だけで本番を迎えた。練習をしていないことで、みんなの不安と緊張は頂点に達していたが、さすが51回生、いつもの明るさと元気で楽しく試合をすることができた。また、無事に優勝を果たし感動のままに肩を閉じた。そして、ドッジボールも51回生が優勝した。

この日改めて、51回生の“仲のよさ”と“団結力”を目の当たりにし、51回生でよかったと思った。

これから実習の日々が続くが、みんなで力をあわせて乗り越えて行きたいと思う。





2005. 6.1 ~

## 娯野医療センター・外来診療担当医表

| 区 分      | 月  | 火                                        | 水                              | 木                                       | 金                                              |
|----------|----|------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------|
| 救急外来     | 午前 | 好川 直樹                                    | 星子美智子                          | 好川 直樹                                   | 星子美智子                                          |
| 総合診療外来   | 午前 | 星子美智子                                    | 好川 直樹                          | 星子美智子                                   | 好川 直樹                                          |
| 呼吸器科     | 午前 | 副島 佳文<br>中村 茂樹                           | 青木 志保                          | 副島 佳文                                   | 青木 志保                                          |
| 消化器科     | 午前 | 西山 仁                                     | 鶴田 英夫<br>成塚真博                  | 鶴田 英夫<br>西山 仁                           | 鶴田 英夫                                          |
| 循環器内科    | 午前 | 岡 浩之<br>中田 智夫                            | 岡 浩之                           | 中田 智夫                                   | 岡 浩之                                           |
| 心臓血管外科   | 午前 | 清田 久雄 (新患)                               | 清田 久雄 (再来)                     | 清田 久雄 (新患)                              | 清田 久雄 (新患)                                     |
| 泌尿・泌尿内科  | 午前 |                                          | 力武 一久 (新患)                     | 力武 一久 (再来)                              | 力武 一久 (再来)                                     |
| 神経内科     | 午前 | 入江 克実                                    | 有馬 祥司                          | 入江 克実                                   | 有馬 祥司                                          |
| 腎臓内科     | 午前 |                                          |                                | 木下 卓哉                                   | 木下 卓哉                                          |
| 小児科      | 午前 | 中野 明子                                    | 小野 直樹                          | 中野 明子                                   | 小野 直樹                                          |
|          | 午後 | 清水 貴士<br>(診療14:00~16:00)                 | 乳児検診<br>(診療14:00~16:00)        | 神経外来第1木曜<br>(診療14:00~16:00)             | 心臓外来第4木曜<br>(診療14:00~16:00)                    |
| 外科       | 午前 | 岡 浩之<br>①②③④                             | 本庄 誠司<br>①②③④                  | 高 和夫<br>①②                              | 高 和夫<br>①②                                     |
|          | 午後 |                                          |                                |                                         | 本庄 誠司(乳臓外科)<br>(診療14:00~16:00)                 |
| 整形外科     | 午前 | 高田 康宏<br>小関 弘毅 (肩・膝)<br>青柳 孝彦 (膝・足<br>趾) | 新患のみ受付                         | 高田 康宏<br>古市 格 (股関節)<br>青柳 孝彦 (膝・足<br>趾) | 新患のみ受付<br>古市 格 (股関節)<br>小関 弘毅 (肩・膝)<br>(大野 清子) |
| スポーツ外来専門 | 午後 |                                          | (野崎 真山)                        | 高柳 孝彦<br>(診療14:00~16:00)                |                                                |
| リウマチ科    | 午前 |                                          |                                |                                         | 田中 史子                                          |
| 脳神経外科    | 午前 | 河部廣次郎                                    | 一ツ松 勲                          | 河部廣次郎                                   | 一ツ松 勲                                          |
| 皮膚科      | 午前 | 陳 文雄 (新患)                                | 山本 雅一 (新患)<br>陳 文雄 (再来)        | 陳 文雄 (新患)                               | 陳 文雄 (新患)                                      |
| 泌尿器科     | 午前 | 山本 雅一 (再来)                               | 中村 貴生                          | 山本 雅一 (再来)                              | 山本 雅一 (再来)                                     |
|          | 午後 | 計屋 敏彦                                    | 予約外来                           | 計屋 敏彦                                   | 予約外来                                           |
| 産婦人科     | 午前 | 堀田 幸子 (産)                                | 一瀬 俊介 (産)<br>向形 隆 (産)          | 向形 隆 (産・婦)                              | 一瀬 俊介 (産)                                      |
|          | 午後 | 一瀬 俊介 (産)                                |                                | 堀田 幸子 (産・婦)<br>(受付13:00~14:00)          | 堀田 幸子 (産)                                      |
| 眼科       | 午前 |                                          | 竹原 昭紀・草野 真央<br>(受付14:00~15:30) | 竹原 昭紀・草野 真央                             | 竹原 昭紀・草野 真央                                    |
|          | 午後 | 竹原 昭紀・草野 真央<br>竹原・草野<br>(完全予約外来)         | 竹原・草野<br>(完全予約外来)              | 竹原 昭紀・草野 真央<br>(完全予約外来)                 | 竹原・草野<br>(完全予約外来)                              |
| 耳鼻咽喉科    | 午前 | (完全予約外来)                                 | 奥 竜太                           | 奥 竜太                                    | 奥 竜太                                           |
|          | 午後 | 堀地 憲輔                                    | 堀地 憲輔                          | 堀地 憲輔                                   | 堀地 憲輔                                          |
| 放射線科     | 午前 | 西田 晴史                                    | 西田 晴史<br>堀井健一郎                 | 西田 晴史<br>(診療13:00~16:00)                | 西田 晴史                                          |
|          | 午後 | 堀井健一郎                                    | 堀井健一郎                          | 堀井健一郎                                   | 堀井健一郎                                          |
| 放射線科     | 午前 | 堀井健一郎                                    | 堀井健一郎                          | 堀井健一郎                                   | 堀井健一郎                                          |

救急外来：月曜日から金曜日の8:30~17:00までの救急患者対応を行っています。

内 科：第2、第4水曜日はペースメーカー外来を行っています。

小 児 科：毎週月・金曜日は一般外来を受け付けています。(受付13時~16時) ■毎週火曜日午後は乳児健診(受付時間11時~14時)

■第4水曜日は心臓外来(受付13時~16時) ■第1水曜日は小児神経外来、午後(受付13時~16時)

外 科：① 一般外科 ② 呼吸器外科 ③ 消化器外科 ④ 乳臓外科

■毎週水曜日の午後は乳臓外来を行っています。(受付13時~16時)

整形外科：毎週火・木曜日は新患のみ受け付けています。救急患者については救急室にて対応しております。

皮膚科：毎週火曜日は、いば専門外来を行っています。

泌尿器科：毎月第1火曜日の午後は、ストーマ外来を予約により行っております。■毎週火・木曜日の午後は、検査予約外来を行っています。

産婦人科：第4水曜日は不妊外来(受付時間13時~14時) ■毎週火曜日午後は母乳育児指導を受け付けています。(受付時間13時30分~15時30分)

■毎週水曜日午後は一般外来を受け付けています。(受付時間13時30分~15時30分)

耳鼻科：毎週水曜日午後は一般外来を受け付けています。(受付時間13時~16時) ■毎月第1・第3水曜日の午前及び毎週水曜日の午後は、補聴器外来を行っています。

歯 科：休診中です。入院患者さんで歯科診療の必要が生じた時は、町内歯科診療所、窓口(富原歯科医院 TEL43-0607)へ往診依頼を行ってください。

※      は休診。 当院の受付時間 午前8時30分~午前11時00分迄

## 特殊診療のご案内

真夏日が続いておりますが、読者の皆様には如何お過ごしでしょうか。

娯野医療センター広報誌「うれしの」第6号をお届けいたします。院内の諸行事、取り組み、学会、研究会、勉強会、出来事などを院内外の皆様にお知らせするために年に4回発行しております。

今号の内容は今年11月に受診を予定しました病院機能評価について、河部副院長からその意義について述べていただきました。

続いて美智子皇后陛下から栄えあるフローレンス・ナイトンゲール記章を受けられる当院看護学校卒業生の徳永瑞子先生の紹介を看護学校教育主事の池田恭栄先生からいただきました。

そのほか最近の病院の取り組みとして開放型病棟の開設、ME器機室の紹介、新医師臨床研修制度のスタートの紹介、新人紹介など盛りだくさんとなりました。

発行が少し遅れましたが、どうぞご自由にお手にとられ、お持ちください。ご感想などお寄せいただければ幸いです。

広報編集委員長 針屋 誠信 (0954-43-1120 内線669)

## 編集後記